



1 IT技術が未来を支える



左から 宮田貞夫先生、小沢雅貴さん(カーレポ株式会社)

「地域経済論」(担当:宮田貞夫先生)では、『カーレポ株式会社』運営統括責任者の小沢雅貴さんから提示された6つの課題に対し、学生が調査研究を進めてきました。9月12日(木)に解決案の発表会がありました。

『カーレポ株式会社』では、新車整備から使用済自動車のリサイクルまで、一社で完結する循環型ビジネスモデル「サーキュラー・エコノミー(CE)」を構築しています。

こうした強みを活かして、環境価値で次世代にふさわしいマーケットの創出を目指していきます。その一環として、本学の学生による更なる躍進のアイデアに期待しています。

「顧客との息の長い付き合いを実現するための会員制度について」の課題解決案を発表した飯村寧音さん(水城高卒)は、LINE等アプリを活用し情報サービスを展開し、イベント情報、整備過程の配信や会員限定のクーポン提供を提案しました。また、「モビリティサービスの環境貢献価値を社会に認知してもらう方法」の課題解決について発表した金子翔悟さん(水戸工卒)は、サステナブルカーレースの開催を提案しました。

学生の様々な提案に対し、小沢雅貴氏は、「皆さんの持つIT技術が、これからの未来社会を支えるものとなります。IT技術を活かした様々な提案があった」と学生の健闘を讃えていました。



2 応援メッセージ!

★ 県立下館工業高等学校



田中一豪 校長

「大志を抱いて努力せよ」を校訓に、工業教育を通して高い専門性と確かな知識・技術を身に付け豊かな人間性を培う下館工業高校です。

田中一豪学校長からは「ITを活かして夢に挑戦してください」とエールを頂きました。

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

<記事トレ>日本経済新聞(2024年8月28日)

燃料電池車

世界販売、35年に40万台予想

●平田柚子さん(石岡商高卒)

◇要約: 燃料電池車は電気自動車よりはるかに性能が優れており、普及すれば2035年には世界販売が40万台になると予想されている期待の次世代車だ。現状の課題は、FCシステムの低コスト化の実現で、30年までに7割削減する必要がある。

◇感想: 少し前に教科書で燃料電池車のことを知り、これほどまでに優れた性能があるのになぜ普及していないのだろうと疑問でいた。この記事からコストの問題など詳しく知ることができました。もし、IT技術がこのFCシステムに関わるなら、私も携わってみたいと思う。

●石川侑典さん(水城高卒)

◇感想: 電気自動車以上に航続が可能で、エネルギー充填時間が何倍も短いFCシステムの車両が増加すれば、地球温暖化の進行も抑えられると考えられる。

今の亜熱帯のような日本の気候も十数年前のような気候に戻って欲しいものだ。

●檜山花蓮さん(水戸桜ノ牧高卒)

◇感想: FCVはEVと違って充填時間もわずか3分で航続距離もEVが567kmのところ820kmも走れるなど強みがあることが記事から分かった。低コスト化を実現させ世界中にFCVをもっと普及して欲しいと思う。

●坂 卓実さん(つくば工科高卒)

◇感想: 二酸化炭素が排出されない燃料電池車の登場によって自動車による温室効果が少なくなるだろう。しかし、燃料電池車はあまり普及しておらずガソリン車が一般的だ。普及させるためのインフラの整備やシステムの低コスト化が必要だろう。

●大内沙月さん(水戸商高卒)

◇感想: 地球温暖化の影響を少なくする為に、二酸化炭素や有害な排出ガスを出さない工夫は大切だと思った。しかし、コストが高かったり充電するところが少なかったりとデメリットも多い。私も大学での学びを活かし地球温暖化に活かせるようになりたい。

